

* 4. 静岡市内に於ける幼稚園児の弁当の実態について

静岡県立女子短大 蒔田 和子

本年4月より7月上旬にかけて静岡市内7箇所にわたる幼稚園（調査対象園児数300名）の弁当の実態調査を行った。幼稚園児の弁当は幼時の食生活の中でも重要な意義をもっているにもかかわらず、保育園に比してまだ給食の対称になっておらず、調査の結果、その内容は予想外に食品にかたよりがあり、家庭生活でも省られている事が少ない事も判明した。調査の結果を次の項目に分類し結論を得た。

1 弁当の栄養価の平均値，及その平均値と標準値との比較……標準値よりも 100Cal 程下まわる平均値を得た。

2 主食の計量と副食の計量，及びその比較，これに伴って弁当箱に対する検討……山手方面に於ては比較的主食の分量が少なく，下町方面殊に家庭工業地帯に於ては主食の分量が多く副食の分量，種類も少ない。従来の弁当箱では菜入れの範囲をしめる位置が少なすぎる。

3 主食の種類……麦飯が全体の 54% 住宅地にはまだ白米食が多い。

4 副食の種類……動物性食品が多く，5，6月の野菜の最盛期であったにもかかわらず，野菜が少ない。弁当の副食が季節的に少しも左右されていない事がわかった。